

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	247	国際性に富む人材育成留学事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア			
担当部課名	教育庁県立学校教育課	事業実施(予定)年度	平成 24 ~ 33 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進		
事業内容	国際性と個性を涵養し、グローバルに活躍できる人材の育成を図るため、高校生、大学生等を海外諸国へ派遣する。また、アジア太平洋諸国とのネットワーク形成を図るため、社会人等をハワイ東西センターへ派遣する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】		27年度	27年度(繰越)	28年度	28年度(繰越)	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	223,245	0	230,733	0	215,030
		(b) 予算現額	223,245	0	206,149	0	215,030
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 24,584	0	0
		(d) 前年度繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	223,245	0	206,149	0	215,030
	執行額	B. 執行済額	180,908	0	199,055	0	201,696
		うち交付金充当額	144,726	0	159,244	0	161,357
		C. 次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	81.0%	—	96.6%	—	93.8%
予算の状況の説明	1. ハワイ東西センター 執行率は99.9%となっており概ね計画通りに予算執行ができた。 2. 1以外の事業 大学生の執行率は90.9%であり、平成29年度派遣生の大学生等において、①1名が派遣辞退者、②授業料等の精算による執行残が不用額の主な要因						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	高校生75名を1年間、アメリカ、欧州、アジア、南米諸国へ派遣。	目標	高校生70人 大学生等30人	高校生70人 大学生等30人	高校生75人 大学生等25人	高校生75人 大学生等25人	
	大学生等25名を修士課程、1年課程、6ヶ月課程で海外へ派遣。	実績	高校生70人 大学生等29人	高校生70人 大学生等23人	高校生75人 大学生等19人	高校生80人 大学生等19人	
	社会人等をハワイ東西センターへ2名派遣	目標		2名派遣	2名派遣	2名派遣	
	実績		2名派遣	2名派遣	2名派遣		
達成状況説明	・平成29年度の大学生等の派遣は高校生75人と大学生等25人合わせて100名を派遣予定であったが、大学生等の派遣生の中から大学からの受け入れが得られず派遣を辞退した1名を除く高校生80人と大学生等19人合わせて99名の派遣となった。 ・ハワイ東西センターへの派遣については、目標どおりに派遣することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(24年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)
	(高校生)海外大学への進学や再度海外への留学を目指したいと考えている生徒の割合 85%以上	目標		高校生85%以上 大学生等85%以上	高校生85%以上 大学生等85%以上	高校生85%以上 大学生等85%以上	—
	(大学生等)留学での研修成果を今後の活動または現在の職に活かしていきたいと考えている者の割合 85%以上	実績		高校生81% 大学生等100%	高校生90% 大学生等100%	高校生89% 大学生等100%	—
	ハワイ東西センターに派遣された社会人等についてコミュニケーション能力が向上したと実感できた者の割合85%	目標		50%以上	50%以上	50%以上	—
		実績		100%	100%	100%	—
	【H30成果目標】派遣者の国際的な視野が広がったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートで検証する。	目標					80%以上
進捗状況説明	・年度を跨ぐ事業であり、平成29年度は、平成27・28年度に派遣され、平成29年度に帰国した派遣生へ帰国後のアンケートを行った。そのアンケートでは、高校生について「再び留学したいと思う」と回答したものが、89.0%であった。選考試験内容について更なる語学力、積極性、目的意識の高さ、コミュニケーション能力を計る選考試験を実施する必要性がある。また、大学生等についても振り返りからもほとんどの派遣生が「留学の成果を今後の活動に活かしていきたいと思う」と回答していた。 ・留学を経験した多くの派遣生が留学体験を肯定的に捉えており、今後の進路や活動に大きく影響を与えることが期待される。 ・成果目標であるコミュニケーション能力が向上したと実感できた者の割合は、実績が100%となっており達成することができた。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	①引き続き、派遣者が現地で生活する上で必要となることを事前に研修を通して学ぶ機会を設ける。コミュニケーションツールとしての外国語の習得や異国の地で異文化の中で生活していくため、ある程度、事前に異文化を理解しておく必要がある。	①事前研修等において、長期留学に向けての心構えや意識の向上を図り、コミュニケーション能力や異文化の中での長期生活について、経験豊かな講師や過去の派遣生による体験談から生活習慣の違い等を学ばせていく。
	②引き続き、研修先において現地高校での講義やホームステイ先でのコミュニケーション等を考え、英語力、積極性の高い生徒を選考する必要がある。	②英語力、積極性の高い生徒を選考するため、引き続き、事前課題を与えたり、選考試験においてグループワークを実施していく。
	③テロ等、世界各地で治安上の問題があり、研修先との連絡体制の構築が必要不可欠である。	③外務省等の海外渡航情報や大使館等からの情報入手を迅速に行いながら、委託先の現地事務所等との連携が図れるよう、連絡体制を構築していく。
今後の取り組み方針		
<p>①事前研修においては、引き続き長期留学に向けての心構えや意識の向上を図り、コミュニケーション能力や異文化の中での生活について、経験豊かな講師や過去の派遣生の活用を実施する。</p> <p>②英語力、積極性の高い生徒を選考するため、引き続き、事前課題を与えたり、選考試験においてグループワークを実施する。</p> <p>③受託業者には現地での緊急時を含めた対応・体制について、プロポーザル時の企画提案書へ明記させるとともに、実際の派遣時には綿密な報告・連絡・相談を行う。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
201,696	201,696	161,357	40,339	0	0	0

(1)ハワイ東西センターへの派遣事業

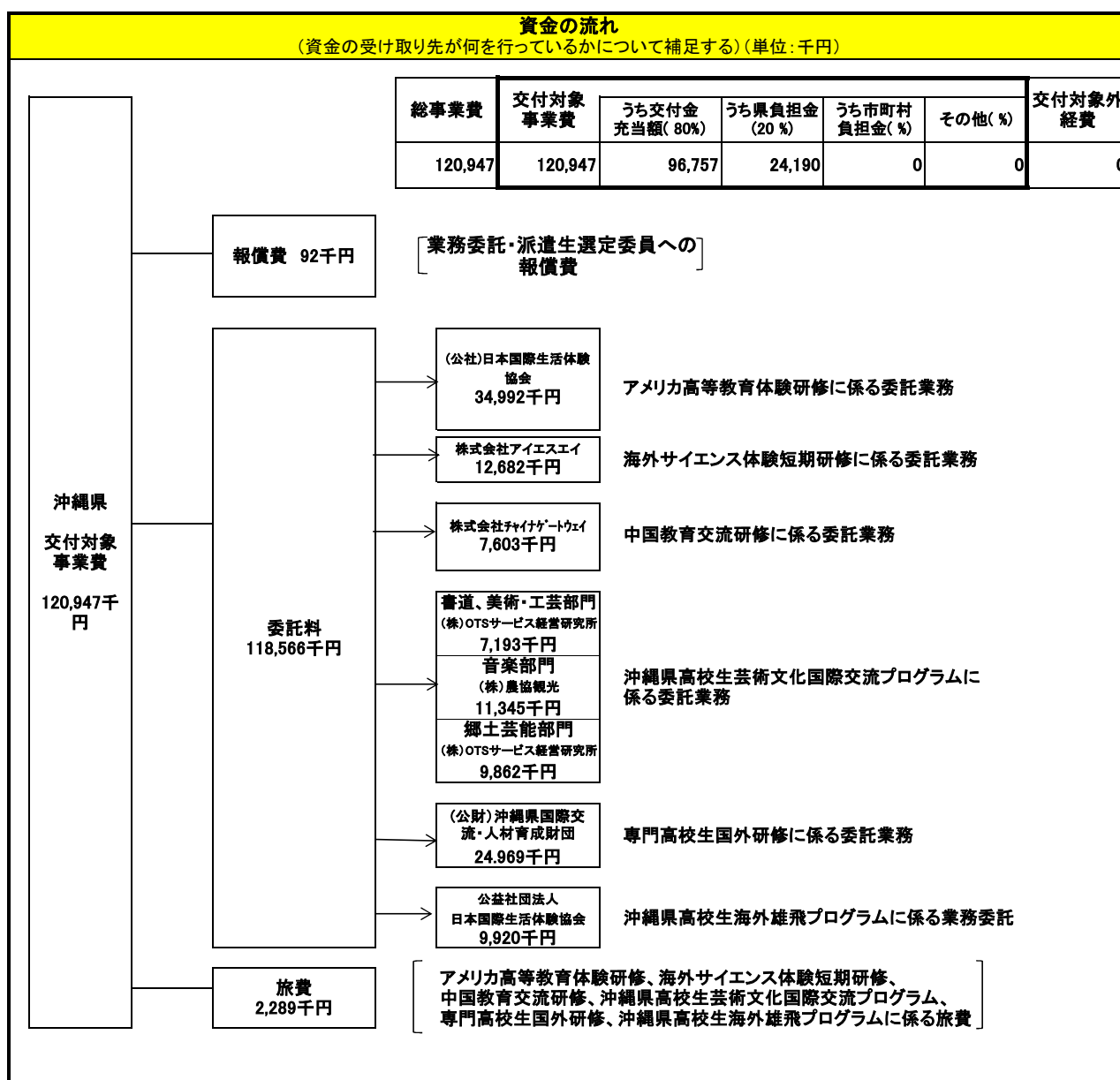
(2) (1)以外の留学事業

評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流れ、費目・使途の点検評価	○ 支出先の選定方法は妥当か。	(ハワイ東西センター) ○委託業者は、企画競争により提案内容、業務体制、予算規模などを総合的に勘案して選定しており、妥当であると認められる。
	○ 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○費目、使途については、金額の確定時に検査を行い、適正であると認められた。
	－ 受益者との負担関係は妥当であるか。	(上記以外の事業) ○委託先については、公募によるプロポーザル形式で決定した。平成27・28年度派遣生の帰国に係る業務、平成29年度派遣生の派遣に係る業務、平成30年度派遣に向けての募集選考業務を行ったが、委託先がそれぞれ業務を円滑かつ確実に遂行した。
	○ 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	248 グローバル・リーダー育成海外短期研修事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-5-(4)-ア				
		国際社会、情報社会に対応した教育の推進						
担当部課名	教育庁県立学校教育課・文化財課	事業実施(予定)年度	平成 24 ~ 33 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)			
事業内容	グローバルな視点を持った世界で主体的に活躍できるリーダーを育成する基礎作りのため、①アメリカ高等教育体験研修、②海外サイエンス体験短期研修、③中国教育交流研修、④沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム、⑤専門高校生国外研修、⑥沖縄県高校生海外雄飛プログラムを実施する。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額【単位:千円】		27年度	27年度(繰越)	28年度	28年度(繰越)	29年度		
	予算の状況	(a) 当初予算額	118,310	-	121,194	-	121,194	
		(b) 予算現額	118,310	-	121,194	-	121,194	
		(c) 増減額(b-a)	0	-	0	-	0	
		(d) 前年度繰越額	-	-	-	-	-	
		A. 計(b+d)	118,310	-	121,194	-	121,194	
	執行額	B. 執行済額	117,251	-	120,725	-	120,947	
		うち交付金充当額	93,801	-	96,580	-	96,757	
		C. 次年度繰越額	0	-	0	-	0	
	執行率(%) (B/A)		99.1%	-	99.6%	-	99.8%	
予算の状況の説明 ・当初計画の事業内容は全て実施できたことや、活動目標の達成状況に鑑みて適正であったと考える。								
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
			26年度	27年度	28年度	29年度		
	高校生の短期研修派遣者数 23人を派遣。 (派遣国数:6カ国及び地域(アメリカ、中国、オーストラリア、台湾、ドイツ、ハワイ))		目標	215人	240人	240人	234人	
		実績	215人	239人	240人	234人		
達成状況説明		①アメリカ高等教育体験研修(50名) ②海外サイエンス体験短期研修(25名) ③中国教育交流研修(20名) ④沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム(74名) ⑤専門高校生国外研修(40名) ⑥沖縄県高校生海外雄飛プログラム(25名) ※「国際性に富む人材育成留学事業」派遣生との合同成果報告会開催(平成30年3月28日 県庁4階講堂)						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(27年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)	
	長期留学を目指したいと考えている生徒の割合→85%以上		目標	85%以上	85%以上	85%以上	85%以上	-
			実績	98.6%	98.6%	95.3%	96.0%	-
	【H30成果目標】		目標					80%以上
保護者へのアンケートで、帰国後、生徒の国際的な視野がより広まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。								
進捗状況説明		・各短期研修実施後の事後研修においてアンケート(設問:「海外の大学等、今後の留学や就職等に興味や関心が高まったか等」)を実施したところ、①アメリカ高等教育体験研修(92%)、②海外サイエンス体験短期研修(96%)、③中国教育交流研修(85%)、④沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム【書道部門(100%)】、【音楽部門(100%)】、【美術工芸部門(100%)】、【郷土芸能部門(100%)】、⑤専門高校生国外研修(95%)、⑥沖縄県高校生海外雄飛プログラム(96%)という結果が得られたことから、達成できた。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証 ①引き続き、現地研修において自ら進んで研修へ参加する意欲を育むため、コミュニケーションツールとしての英語力を身に付ける語学研修や異文化理解について学ばせる必要がある。 ②引き続き、研修先において現地大学での講義やホームステイ先でのコミュニケーション等を考え、英語力、積極性の高い生徒を選考する必要がある。 ③テロの問題等、世界各地で治安上の問題がある。	①事前研修等における外国語講師を活用した語学研修の充実や異文化理解について前年度派遣生、引率教諭による体験談から生活習慣の違い等を学ばせる必要がある。 ②選考試験における書類選考時の英語能力資格等の実績については得点のウエイトを高める必要がある。また、面接試験内容について更なる語学力、積極性を計る選考試験を実施する必要がある。 ③外務省等の海外渡航情報や大使館等からの情報入手を迅速に行いながら、委託先の現地事務所等との連携が図れるよう、連絡体制を構築する必要がある。
今後の取り組み方針	
①事前研修においては、引き続き英会話能力向上を図るための外国語講師活用、異文化理解を深めるための前年度派遣生、引率教諭の活用を実施する。 ②選考試験における書類選考時の英語能力資格等の実績については得点のウエイトを高める。また、面接試験内容について更なる語学力、積極性を計る選考試験を実施する。 ③受託業者には現地での緊急時を含めた対応・体制について、プロポーザル時の企画提案書へ明記させるとともに、実際の派遣時には綿密な報告・連絡・相談を行う。	



資金の流れ、費目・	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流れ、費目・	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	